

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271500278		
法人名	特定非営利活動法人 あかぎ福祉会		
事業所名	あかぎファミリーケアセンター まんてんの家		
所在地	島根県飯石郡飯南町下赤名1919-1		
自己評価作成日	令和2年10月9日	評価結果市町村受理日	令和3年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和2年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者の意志と気持ち等を重視して「居心地の良い日常生活」が送っていただけるように気配りをする事。 ・家族と連携をとり、利用者の要望、生活状況、体調等を日常の介護に役立てる努力をすること。 ・職員の介護技術、接し方等を施設内外の研修を通して常に向上精神をもつこと。 ・地域資源を使って利用者に楽しんでもらうこと。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が地域の一人として今迄の生活を継続し、地域資源を使いながら楽しんで生活出来るように見守りながら支援している。ハーモニカ演奏や伝統演芸等のボランティアとの交流や、正月のとんど祭りや彼岸には寺の住職の法話を地域の人と一緒に聞く等、事業所は自治会や地域行事の場所であり、地域と共に存在している。家族からの信頼もあり、家族は家族会の後窓拭きや草刈等を行っている。近所で困った人がいれば相談や手を差し伸べ、常に「最善のケアサービスとは何か」を模索しながら利用者に寄り添っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見やすい位置に掲示し、毎日の業務で支援を共有できるように確認するように努めている。	理念に沿った支援を心がけ、利用者それぞれの思いや気持ちを汲み取り、地域とのつながりの中でその人らしい生活が送れるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	学校や地域の行事に参加したり、事業所の行事に地域の方を招待している。地域の方が事業所周辺の草刈りして下さったり、交流を深めている。この1年はコロナの影響で少し減っている。	保育園児や中学生、高校生との交流、町の敬老会等に参加する等地域とのつながりを大事にしている。日常的に草刈りなど地域の方の協力を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や包括支援センターを通じ介護や認知症の講演への参加の促しや相談を受けている。また施設行事で地域の方の参加を得て理解や支援をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や事業所の取り組みやサービスの状況などを報告して会議の内容や意見をサービス向上に活かしている。	積極的に意見交換を行い、地域の情報や介護用品等島根県の助成情報、コロナ禍では面会情報等を聞き運営やサービスに反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターの会議に参加して事業報告、意見交換等を共有し合い、保健福祉センターや病院と連携を図り協力するよう取り組んでいる。	日頃から情報提供や助言を受け、協力関係を築いてサービスの向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は防犯上夜間のみ施錠している。居室での転倒や事故防止の為に、足元にセンサーを設置しているが家族の同意を得ている。また定期的に評価を行っている。職員は研修に参加、報告して知識を深めるよう取り組んでいる。	外部、内部の研修会に参加している。支援の中で人権擁護、虐待、身体拘束等気になる時は職員同士で指摘し合い、解決出来ない時は職員会議で話し合い利用者の立場に立った支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修へ参加、職員全体で見直しお互い意識し合い注意するよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修へ参加、職員へ報告し勉強している。必要に応じて活用できるように支援も継続する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時や内容改正の際は、説明して理解を得るようにしている。また、同意書をもっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や家族の方の面会時や計画書を送付する際に、意見や要望を伺うようにしている。状況により電話やメールで緊急連絡をしてお対応している。	利用者の生活の様子を面会時や写真を添えた手紙で伝えている。年1回の家族会で家族同士が交流する場を設けている。コロナ禍では書面のやり取りで対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会や個別面談をしたり、臨時職員会を開催し、意見や要望、提案を聞き情報収集を行い運営に反映させている。	管理者は気持ち良く働ける職場作りを心掛けている。日頃の支援の中で気付きや情報を共有したり、毎月気付いた事や改善方法を全職員に書き出して貰い職員会で話し合い、出来る事から改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度初めまでに個人面談を行い、個々の能力に応じて担当を決めたり、職員の意見や要望を聞き取り環境、労働条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加、報告書を提出、職員全体で把握できるよう研修報告をして、レベルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回の事例検討会や部会などで他施設や他職種の方とネットワークをつくり、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事前面接を行い、本人の意見、要望を十分に聞いたり、入所後はケアする中で本人の気持ちをくみ取ったり話しやすい関係を築けるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に事前面接を行う際に本人の要望を十分に聞いた上で、家族の要望も聞き取りケアに活かし関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族との関係と状況を把握して必要な支援を見極めサービスを提供するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意なこと、出来る事に着目して職員も一緒に行い、喜びや楽しみを分かち合える関係づくりを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話で情報交換を密に行い、本人や家族の要望を聞いている。必要に応じて相談し合い、共に本人を支えていく関係を築けるよう努めている。現在はコロナの影響で面会ができない家族はリモート対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で面会は難しいが、本人が手紙、年賀状、電話などで馴染みの人へ自由に交流できるように支援している。	地域に出掛け長年の知人、友人との話を楽しんでいる。コロナ禍では手紙、葉書、電話で馴染みの人との関係が途絶えないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの個性を把握し、利用者同士の関係や役割等も配慮し支援するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたり、入院が続いていても家族にその後の様子を聞いたり面会をして、相談があれば応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の生活で、利用者に関わる中で把握した利用者の希望や意向は、職員同士共有しケアできるよう努めている。	入浴時や利用者が一人になった時ゆっくり会話をし利用者の思っている事、希望を聞き、なるべく意向に沿えるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所されるまでの生活歴や性格を本人や家族から聞き把握して、その人に合った暮らしができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録、アセスメント、ケアプランで様々な観点から本人の状況に合わせ、個別に対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のモニタリングの場を設け、職員が個別の気づき、意見等をレポート提出しそれに基づいて意見交換をしながら課題やケアを検討して介護計画を作成している。	利用者の状態を職員会議で話し合い、家族、利用者の希望する買い物、外食支援等も取り入れて思いに沿った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りで日々の記録や気づきを記入し、個別記録にその工夫や報告をし、職員間で情報を提供しながら実践している。そしてその結果を介護計画の見直しに活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族にも理解してもらいながらできるだけ本人のニーズに対応できるように柔軟な支援をするよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	四季折々の花見や行事への参加、外出支援や交流を大切にしていき、生活を楽しめるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前の状況把握により入所後もかかりつけ医で継続した受診をしている。状況によっては家族へ連絡して医療機関を決定している。	利用者、家族の納得した医師の受診が出来るように話し合い支援している。受診時には職員同行で日々の様子、気になるところを相談している。必要があれば家族も同行し共通理解をして援助している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中での情報や気づきを職員で共有して、緊急時には看護師に連絡を取り、対処方法等を聞く体制にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は、主治医・看護師・家族・施設で必ず話し合いを行い、利用者が安心して治療を受けられるように支援している。また、定期受診の際に情報交換や相談をして、関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に説明しているが、入院した時も本人と家族に説明して出来る限り要望に添えるように努めている。また主治医、病院と連携してその都度話し合いに取り組んでいる。	入居時や状況変化に合わせて利用者、家族に丁寧に説明し、思いや意向、過ごし方等を聞き、医師や病院と連携して取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の講習やマニュアルを作成して緊急時の連絡体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署や地域の方と一緒に避難訓練や消火訓練を実施している。緊急時の対応を掲示するとともに全職員に周知して昼夜想定して訓練を行っている。	地域の人も参加して日中、夜間を想定して避難、消防、災害訓練を行っている。実際に近隣の中学校に利用者を避難させたり、地域の人には避難した利用者の見守りをして貰う等の協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき本人の人格を尊重し、プライバシーを損ねないよう言葉かけや対応に十分配慮している。また、職員同士、お互い注意し合いながら努力している。	意志や人格を尊重し特に言葉使いや言葉かけに気を付けている。入浴時、排泄時にはカーテンをする等して羞恥心に配慮した対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思表示しやすい環境づくりをするために何でも言えるような信頼関係を築く努力をしている。認知が進行して難しい方は表情や動作をみて支援できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを尊重し、その人の希望に沿って支援できるよう個別対応などの工夫をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝髪を整えたり、その日着る服を利用者に選んでもらっている。また、訪問理容を定期的に利用している。時々、化粧やネイル等をして喜んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方に献立の希望を聞いたり、健康状態に応じた料理や地元の食材を使って季節感を味わえるよう心がけている。準備や片付けは出来る方に負担にならないように配慮しながらしてもらっている。	献立の希望を聞いたり好みを把握し、行事食や季節料理を献立に取り入れたり、ソーメン流しやおはぎを職員と一緒に作る等食を楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量を毎食チェック表に記入して、栄養バランスがとれるようにしている。体重の変動のある方等は健康状態に応じて食事の形態も、個別に対応している。また、主治医に相談して栄養補助食品を導入したり支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを本人の状態に応じ支援している。また、歯科治療へ介助も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握してプライバシーを配慮しながら声かけ、誘導し自立支援している。個別ケアとして本人の状態に合わせてポータブルトイレを設置したり、オムツ等の見直しもしている。	状態に応じた排泄介助に努め、出来るだけトイレで排泄出来るように支援している。夜間は一人ひとりの排泄状況や時間を考え、睡眠の妨げにならないように誘導に気を付けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分補給の工夫と適度な運動やヨーグルト、ヤクルトの摂取を把握し、職員間で共有して心がけている。また服薬は主治医と相談して対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの好みの温度でゆっくり入浴できるように支援している。最近ではリラックスできるような癒しの音楽を流している。入浴できない日でも、手足浴等を行い、リフレッシュできるように支援している。	希望に応じた入浴が出来るように体調やタイミングに合わせた支援を心掛けている。音楽をかけたり入浴後はお気に入りの化粧水で肌を整える等、心地良い入浴になるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠できるように日中体操や散歩をしたり、個別の健康状態に応じて休息する時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者一人ひとりの服薬を処方された時に理解し確認して、服薬の症状に応じて主治医に相談し指示を受けるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や得意なこと、興味のあることを意欲向上に繋げるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じながら天気の良い時は庭で日光浴や近所を散歩したり、地域の行事やイベント、ドライブに出掛けている。個別対応で外食支援も行っている。	お花見、秋の林檎狩り等体調に合わせて季節毎に出掛けている。現在はコロナ禍で人が多い所は避け事業所の庭でのお茶会を増やす等工夫して支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援しているが、所持等が難しい方が多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時に家族へ電話を取り次いだり、また年賀状や暑中見舞いを出したり、個人で手紙やハガキを書かれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の整理整頓、温度湿度の調節をし、また季節感を実感できるように生花をいけてもらったり、季節の展示物を一緒に制作し展示している。	季節の花を生けたり、一緒に季節ごとに折り紙で紅葉やハロウインの飾りつけ、クリスマスツリーを置く等楽しめる空間づくりをしている。利用者同士の関係にも配慮して席を設けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間でも自由に過ごせるよう配慮している。また、気の合う利用者同士で過ごせるように席替えをしたりして工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族と相談しながら、使い慣れた物を設置して居心地よく過ごせるように工夫している。	馴染みの物を持参して貰い今迄の生活スタイルが維持出来るようにしている。転倒防止策として利用者に合わせ手すりを設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に応じて居室内の整備、掃除、洗濯物収納など自立して生活を送れるように支援している。		